

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370500294		
法人名	社会福祉法人 新生寿会		
事業所名	新賀痴呆対応型共同生活介護事業所		
所在地	笠岡市新賀3220-25		
自己評価作成日	H25年3月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500294-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370500294-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成25年3月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

4月よりスタッフの異動・管理者も信任され、新体制へと形を変えた。1階は4名、2階は5名の方が生活されており、エレベーター・階段で自由に行き来出来る一人一人の生活・意向を大切に、日々発した声を見逃すことなくその時その時の要望を聴き入れ、心のケアに力を入れている。また、地域の方や研修を受け入れている。また、インテリアに力を入れていて、入居者や御家族に協力して頂き、落ち着いた過ごせる空間作り・環境を作っている。食事にも力を入れ、味や見た目・食感にこだわっている。また、手作りおやつや様々な行事・誕生日会なども大切にしており、楽しみ作りも大切にしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

介護保険制度の発足と同時に開設したグループホームで12年間の運営が経過した。きのこの病院や老健施設のある敷地内に4つのグループホームがあるが、一昨年前頃から連帯が出来、運営推進会議や全グループホーム連絡会も開催し、情報交換している。平成23年度にはこのホームが先端となり、外部評価減免制度で外部評価をパスしたので2年振りの訪問となった。今までベテランの職員の管理者でずっと運営していたが、今年度からは若い年代の人が管理者となっており、ホームの生活の様子も変わっていた。その一つが、このホームは2階建てリビングと居室も上下に分かれて生活していたが、食事は1階のリビングルームで全員で食べていた。同一ホームの住人が一緒に顔を合わせ一緒に食事する事は良いものだと思う。看護師とケアマネージャーが隣のホームと兼務で勤務して、両方の利用者の様子を確認していた。利用者本位で個々に満足できる生活ができる良いホームが持続されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私達は認知症高齢者に対して、その人らしさを大切にし一人一人の希望を尊重したケアを提供いたします」という理念をスタッフがいつでも目にする事務所前へ掲げている。	理念とともに小目標を掲示して、いつでもケアのあり方を振り返ってみることができ、利用者一人一人の生活を大切に考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件が悪く運営推進会議を通して、少しずつ秋祭りのおみこしの見物やバザーへの出店をして交流の機会を増やしている。	立地から地元との関わりが希薄になりがちであるが、買い物に出かけたり、老健施設のバザーへの出店、祭りの時に神輿が上がってきたりしている。	グループホームでは、地域との関わりを重要視するのが当然であり、幼・小中学校などとの交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けての発信は出来ていない所があるが、運営推進会議や地域の活動を通して、少しずつ改善していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、運営推進会議を開催し、民生委員・地域・家族・市のスタッフの方々に参加して頂き、グループホームの取り組みやお年寄りの思いをくみ取り交流へとつなげている。	4つのグループホームが合同で開催し、ホームの状況報告等を行っている。以前より充実し、よい運営推進会議となっている。	参加メンバーを増やし、会議の成果が出る積極的なものにし、地域交流の場の足掛かりにしてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者との関係を大切にしながら、相談をしたり協力関係を深めている。	日常的に必要な時には連絡を取り、市との連携が取れるよう心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人老健施設の委員会に参加し、正しい理解ができるように学んでいる。まだまだ、安全を確保する為にどのように工夫をするべきかを思案している。	身体拘束禁止は、法人内では当然のこととしている。利用者は気ままに過ごし、玄関の施錠もされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人老健施設の委員会に参加し、正しい理解ができるように学びケアの見直しの時には高い意識を持って取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフの異動もあり、今一度制度について学ぶ機会を設ける必要がある。今後支援を必要としている方に応えていけるように方針を定めて支援の体制は整えていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・家族に説明を行い、納得された上で契約をしている。不安な事や疑問などゆっくりと時間をとり、解り易い言葉を使い説明する事で不安を解消するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等にはなるべくスタッフが最近の様子を伝えるようにし、家族からの要望があれば、伺うようにしている。	家族の面会時に、近況報告など話をするようにしているが、直接要望等を聞けることが少ない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会・ミーティングでスタッフの意見交換を行い、意見や提案は柔軟に取り入れて改善を行っている。	新しく若い管理者が就任した。スタッフ間は、ケアだけでなく日常生活上のことでも自由な意見が出せるような関係作りを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見を気負いする事無く言える機会や雰囲気をつくるようにしている。年間の目標を立て、自主性をも大切にしている。やりたい・学びたいという思いに柔軟に協力できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加し、様々な刺激を受けたり、同グループの発表会に参加している。その事により、視野を広げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループホーム間で定期的に部会をしたり、研修を受け入れ意見交換を図り、ケアの改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には本人の不安や要望を聞き、安心して過ごしてもらえるよう声掛けをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に家族には不安に思っている事や要望等、聴く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の性格、過ごし方、望みなど聞いてアセスメントしている。また、本人の思いが聞けない方には家族に思いを聞きしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係に努め、共に生活する者同士として楽しくまた、安心して過ごせるように尊重合い、交流を図っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いや家族とのつながりを大切にしている。気軽に来てもらえるよう、声を掛けている。また面会の際には、ゆっくりと本人と過ごしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人や馴染みのある人が来られた際には、ゆっくりと過ごしてもらっている。	慣れ親しんだ場所へ出かけたり、馴染みの人とのつながりを持ちにくくなっているが、ここで安定した生活が続けられるので、利用者同士すっかり馴染んだ仲間である。新しい人が入所した時には、早く馴染めるように心遣いをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の居場所や役割、価値観などを大切にしながら、他入居者とのかかわりを持つよう働きかけている。出来るだけ孤立することがないように、声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、関係を失う事はしていない。いつでも気軽に立ち寄って頂けるように努め、また、相談に応じる体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い・希望などを聞き、発した言葉から意向をとりいれていく。	生活歴を本人や家族から聞き取り、生活スタイルや意向の把握に努め、日々のコミュニケーションの中からも思いを引き出すようにしている。積極的な意向を表現されることは少ないが、いろいろな場面からくみとれるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ミーティングを定期的に行うことにより、スタッフ間での情報を共有できるようにしている。また、昔からの暮らし等を家族から聞き、本人の思いや希望に添えるケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後に関わる事により本人の暮らし、健康状態、好きなこと等を把握している。日々の生活の中でできる事に目を向け、可能性を伸ばせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の声、希望を書き込み、その人らしさを一番にしたケアプランにしている。	心の交流ということに主眼を置き、本人の生活歴や趣味などを把握し、日々の生活、本人や家族の意見を基に介護計画を作成している。	アセスメント・モニタリングシートをもつと具体的な表現にするとわかりやすい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の生活を記録にし、気付いたことをミーティングで話し合うことにより、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	これといったサービスの多機能化には取り組んでないが、入居者・家族の日々の声を聴き入れられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	立地条件が悪く地域の資源は十分ではないが市や地域の機関と連絡を取り合い、活用できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回エスポール病院の担当医に診察を受けている。また、状態の変化に応じ往診できる支援体制が整っている。	法人グループの病院に定期的を受診している。系列病院であり、医療連携体制ができており安心できる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフに看護師がおり、日々の健康面、精神面を生活の中で見ている。スタッフも日々の生活の中で小さな変化を観察しており、いつでも看護師に相談でき対応できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時に家族や医療機関と話し合い・情報交換を行っている。必要に応じて情報提供書の作成も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師が居るため、何かあれば相談・連絡できる体制が出来ている。家族とも話し合いを行い、またチーム内でも話し合い、緊急でミーティングを行ったりして情報の共有に努めている。	状態の変化に応じて、医師・家族と話し合いながら対応している。入浴が不可能となった時の対応も今後考える予定。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しいスタッフも加わり、緊急・事故発生時に備えたマニュアルを作り直した。応急手当に関しては、看護師の指示のもと行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。先日のグループホーム火災に伴いマニュアルの見直しを行っている。同法人内で委員会を立ち上げ、色々な場面で協力・対応出来るよう話し合っている。	法人全体で避難訓練を行うなど、災害時には関連施設間での支援体制がある。	地震対策として家具・物品の転倒・落下防止などへの配慮が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりかけがえのない方としてその人の価値観、思いを尊重している。声かけもその人に応じた、またプライドに配慮した対応が出来る。	リビングと居室が全く独立しており、それぞれのプライバシーは非常に守られている。トイレも居室にあり、誘導時等の声掛けも耳元でさりげなく行われており、一人一人の尊厳が守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者同士の会話、スタッフとの会話の中の思いやりや希望を家族に協力をしてもらい、必要時にはミーティングをしたり実現できるようにつとめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新体制になり、スタッフの異動もあり、その人らしい生活を十分に把握出来ていない現状であり、把握出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服、装飾品などその人らしくあるために本人、家族と話をし持って来てもらったりしている。入居者が重度化してきている為、訪問美容も取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備出来る方には手伝ってもらったり、本を見て食べたいメニューを決めている。行事や誕生日も大切にしており、味付けだけではなく見た目にも気をつけている。	専門の管理栄養士のアドバイスを得ながら、スタッフも献立・レシピ作成に参加している。利用者と一緒に調理することもある。我が家にある様な「食」の楽しみと安全を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は変化のある方は記録に記入している。本人に合った食事量や形態にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医と連携して、歯の不具合があれば往診してもらっている。その際にアドバイスをもらい、清潔保持に努めている。出来る事は自ら行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の間隔やサインに気付き、プライバシーに配慮した声かけをして誘導している。出来ることはしてもらい、また、汚物の処理もそれと解らないよう工夫し持ち出している。	自室に個人のトイレがあり、リビングからの距離も短く、自立した人は自分で気兼ねなく排泄できる。介助が必要な人は、時間を見て声掛けし、居室に誘導し排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活や運動、腹部マッサージで自然排便出来るようには促している。個々の病状に応じて看護師・医師に相談・診察してもらい、その人に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の入りたい時間にゆったりと入っても入っている。本人の好みの時間、湯の温度などしっかりと把握しその人に応じた入浴をしている。	2日に1度、一般浴で対応している。希望があれば毎日の入浴も可能。安全で安心して入浴してもらえるよう、その人に合わせている。ほとんどの利用者が楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりと休んでもらうよう日中の活動を重視している。また、眠れないときや不安を感じる時はそばにいて安心して休めるよう働き掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、説明書をいつでも確認できるようにしている。服薬の際には声掛けを行い、服薬後まで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の好み、意向を把握して本人に声かけをしながら、入居者の声を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日、行事の時など散歩やドライブ・買い物等、気分転換も兼ねて行っている。	少人数でお花見や紅葉狩り、道の駅などへの外出を行っている。希望する利用者はスタッフと一緒に食材等買い物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理することは困難であるが、入居者からの訴えがあった時には買い物の際に買うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等訴えがあれば応じているが上手く伝えられない場合もあり、スタッフが代弁したり必要に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や温かみを感じられるようインテリアを工夫している。明るさや掲示物の高さ、本人に合った椅子等快適に過ごせるよう、工夫している。	居室とリビングが独立しており、利用者にとっては1日の生活にメリハリができています。和風の民芸品や着物・額・植物などを使い、親しんでくつろげる雰囲気作りをし、落ち着いた空間となっている。	階段にすべり止めがなく、境目目わかりにくい。安全面に配慮がほしい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が思い思いに過ごせるよう、本人が好きな席の工夫やTVが見れるリビングスペースなど、考慮している。また、気の合う入居者などが過ごせる居場所など、その人に応じた配慮をおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は落ち着いて過ごせるよう馴染みのものを持ってきてもらい、写真や絵を飾りその人らしい部屋を作っている。	和室と洋室があり、馴染みのある家具や飾りつけでゆったりと落ち着いて過ごせるような居室作りをしている。利用者それぞれの生活の場ができています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの作りになっており、安全面に配慮している。エレベーター完備であるが、階段で降りたい方は階段で下りてもらうなど、出来ることを奪わないよう配慮している。		